

## 政務活動調査報告書

調査日	平成30年4月10日（火）
視察場所	愛媛県 宇和島市
調査項目	「うわじま歩ポ」による健康づくりについて
視察者名	畑尻宣長
市の概要	面積：468.19 km <sup>2</sup> 人口：77,465人 人口密度：170.97人/km <sup>2</sup> 世帯：36,582世帯 経常収支比率：82.7% 実質公債費比率：6.8%

### <アプリ開発の経緯>

平成25年9月議会にて「市民の健康生活の動機付けに大変有効な『健康マイレージ制度』が広まっている。わが市にも構築を」との提案があり、市長の指示を受け検討を開始。成人を対象としたマイレージ制度について、保険健康課、高齢者福祉課で、それぞれ事業の制度設計を行った。

保険健康課では、ウォーキングに着目し、「市民の健康づくりを、行政と地域の商店等が支援」する3者循環型の健康づくりとして制度設計することとした。平成28年度に『誰でも、どこにいても、わたしの生活スタイルに合った「健康づくり」』をコンセプトにアプリ導入を企画。既存の宇和島市公式アプリ「伊達なうわじま安心ナビ」を活用し、健康モードとして「うわじま歩ポ」を加え、平成29年3月に先行配信し、現在に至る。



### <うわじま歩ポ（アプリで歩ポ）>

「うわじま歩ポ」には、スマホユーザー向けの「アプリで歩ポ」と、アプリを使用しない人向けの「こつこつ歩ポ」があります。

## <対象者>

- ① 18歳以上の市民、または、宇和島市内の通勤通学者  
→ポイントに応じ、クーポン、達成券（1000円相当のお買物券）と交換
- ② 18歳以上の上記以外の人  
→初回登録時のみ、クーポン進呈

## <具体的な内容>

スマートフォンの加速度センサーで歩数を自動計測する仕組みの利用。

2,000～3,999歩/日は1歩ポイント、

4,000～5,999歩/日は2歩ポイントという具合に、

最大4歩ポイント/日獲得でき、60歩ポイント、100歩

ポイント、350歩ポイント時に、クーポン・歩ポイント達成券（1,000円相当のお買物券）に交換可能。アプリで交換申請が出来る為、市の窓口への来所は不要となります。

参加登録時に、アプリ内で「闘牛」を1頭選び、ユーザー名が闘牛（牛主）の名前となって画面に表示され、貯まった歩ポイントに応じて成長し、番付が上がっていく育成ゲームにもなっています。

その他、おすすめウォーキングコース、ウォーキングの豆知識、クーポン・歩ポ券取扱店の店舗情報（ホームページのリンク設定可能）なども掲載されています。

登録者を増やし、飽きさせない工夫が必要だとして、平成30年4月から、ランキングが表示されるようになりました。また、前年度の闘牛の保存も可能になりました。これにより、さらに、やる気を出されている人も多く見受けられるようになったようです。

## <アプリの利用状況>

「伊達なうわじま安心ナビ」のアプリの利用状況は、観光モード1%、防災モード4%、健康モード（うわじま歩ポ）71%となっています。

健康モードの閲覧項目は「お知らせ」を除くと、1位は「歩ポイントランキング」、2位は「クーポン・歩ポ券取扱店舗一覧」、3位は「闘牛」となっております。日々のウォーキングの成果が見える項目が多く閲覧されていることがわかりました。

うわじま歩ポ配信開始の平成29年3月以降「伊達なうわじま安心ナビ」の利用者数は急激な右肩上がりが増加しています。



～ 歩けば貯まる健康ポイント～

ある

# うわじま歩ポ

うわじま歩ポ VOL.1

【アプリで歩ポ】【にっこ歩ポ】登録はお済みですか？

「うわじま歩ポ」って、何？

市民の健康づくりを自由とした「うわじま健康マインージ事業」です。うわじま歩ポの登録者は、歩数に応じて「歩ポイント」が付与されます。目的は、「歩ポイント」は市内の200店以上の取扱店で利用できるクーポン(※1)や歩ポイント達成券(※2)と交換することができます。

【歩ポイント】は市内の200店以上の取扱店で利用できるクーポン(※1)や歩ポイント達成券(※2)と交換することができます。

【アプリで歩ポ】

歩数(1日)	歩ポイント(P)
2,000～3,999歩まで	1
4,000～5,999歩まで	2
6,000～7,999歩まで	3
8,000歩以上	4

【にっこ歩ポ】

歩数(1日)	歩ポイント(P)
2,000歩以上	1

参加登録はお済みですか？  
(2つのコースがあります)

▶アプリで歩ポ：伊達なうわじま安心ナビ「健康モード」のマイページで会員登録します。  
▶にっこ歩ポ：伊達健康課、各支所で、歩ポイントカードの申請ができます。  
※登録してからの歩数がポイント交換の対象になります。登録がまだの方は、早めに登録ください。

あなたも、牛主！牛を育てよう！

「アプリで歩ポ」では、歩けば歩くほど闘牛がどんどん育ちます。自分の牛が勝手に成長していく姿を楽しんでください。

※牛は3頭から選べます。

ポイント交換は？

【アプリで歩ポ】交換もアプリのマイページから

アプリ新規会員登録時	クーポン
歩数 80 P	クーポン
歩数 100 P	歩ポイント達成券1枚
歩数 250 P	歩ポイント達成券1枚

【にっこ歩ポ】交換も窓口から

歩数 50 P	クーポン
歩数 100 P	歩ポイント達成券1枚

※本アプリは歩数計測の動作に必要なセンサーを搭載されたAndroid・iOS端末のみ歩数計測機能に対応しています。 ※歩数計測機能の利用可能端末：iPhone S/S 以降の iOS 端末・Android 4.4 以降の LTE 通信対応端末

【問合せ先】 保険健康課成人保健係 ☎49-7021・吉田支所 ☎49-7095・三間支所 ☎49-7103・津島支所 ☎49-7002

## <平成 29 年度実績>

- 全会員数（登録数） 4,419 人
  - 「アプリで歩ポ」 3,838 人
  - 「こっこつ歩ポ」 581 人
- インセンティブ発行
  - クーポン 2,927 件（新規 1,671 件・参ポ賞 1,256 件）
  - 歩ポイント達成券 2,305 件（参ポ賞 1,637 件・健ポ賞 668 件）
- 記念品料執行状況 1,108,000 円（会員が買物等に使用した達成券枚数 1,108 枚）
- 歩ポイント達成券等取扱店
  - クーポン取扱店 52 か所
  - 歩ポイント達成券取扱店 252 か所

## <現在の課題、今後の展開>

スマートフォンに慣れていないユーザーも多数あり、窓口、電話等で操作方法に関する相談にも対応している。解決できない場合は、委託業者へ対応を委ねている。

今後、「お知らせ」機能などを利用した検診受信勧奨も実施していきたいと考えている。

## <所 感>・・・畑尻宣長

今や生活になくってはならないほど、普及している携帯電話の保有世帯の割合は、「平成 29 年版情報通信白書」によると、2003 年に 90%を超えてから、徐々に伸び、2016 年には、94.7%となっています。スマートフォンに関しては、2010 年に 9.7%の割合だったものが、3 年後の 2013 年には、62.6%まで急激に普及し、2016 年には 71.8%を占めるに至っています。その携帯電話の約 76%がスマートフォンという状況になってきています。

スマートフォンは、アプリケーションを利用、活用することで、情報発信や業務の効率化がこれまで以上に図られるのではないかと考えます。そこで、愛媛県宇和島市の取り組みを学んできました。

宇和島市では、「伊達なうわじま安心ナビ」というアプリに、観光、健康、防災のアプリを一つにしています。その理由は、観光が目的で利用していた人が、観光地で災害に出くわした場合、すぐ防災のページへ移動し、GPS を利用した避難所のマップを開きます。すると今いる場所から一番近い避難所がわかります。市外から観光で訪れる方々が、どこへ行っているかわからず路頭に迷うことは避けられるからであります。健康については、ウォーキングマップと観光マップとの連携を図ることにより、観光客のみならず、利用する市民にも



観光という視点で、新たな発見があることも予想されます。そして運用コストについては、3つの部署で費用の分担割りをしますので、ひとつひとつの担当課で運用するよりかなり低く抑えられます。

「誰でも、どこにいても、わたしの生活スタイルに合った健康づくり」をコンセプトに「伊達なうわじま安心ナビ」というアプリの中に「健康モード」として「うわじま歩ポ」を導入しました。このアプリは、スマートフォンの歩数計機能と連動しており歩く歩数をカウントし、その一日の歩数に合わせたポイントが自動でカウントされていきます。これは、本人による毎日の手書きのチャレンジシートの作成や、職員による集計作業が、このアプリにより負担が無くなります。また、記入し忘れたということも無くなります。

特徴的なことは、宇和島市の観光の目玉の一つに、「闘牛」が有名であります。このアプリでは、歩く歩数に合わせて、闘牛が成長していくという遊び心が詰まった機能も付けてあります。歩数を増やし、ポイントを貯めていくと、どんどん闘牛が成長していくわけですが、成長した闘牛の種類が数種類あるため、みんな同じように成長しない為、アプリを使用している人たちの中でも話題になり、楽しんで参加している人もいます。

そんな「うわじま歩ポ」ですが、昨年度の登録者数は、4,419人で、ダウンロードは、1万件を超えたそうです。登録は18歳以上の市内在住、または市外から市内に通勤通学者に限っておりますが、その他の方でも、登録すると新規登録者がもらえる宇和島市内で使用できるクーポンがもらえる為なのか、増えているようであります。そのクーポンは宇和島市内限定でありますので、利用してもらうことによるメリットもあります。お店の方から、市の方に、クーポンの取扱店にして欲しい、達成券を使用できるようにするにはどうしたらよいか、といった問い合わせもあり、ちょっとした活性化にも繋がっているとお聞きしました。

さらに、飽きてしまうとやり続けるひとが減ってしまうということで、ランキングを取り入れたそうです。そうすることで、インセンティブ目当てから、ランキングを上げたいとして頑張る方が増えているようであります。

歩くということを、無関心層まで広げる為にも、このようなアプリの利用が適しているのではないかと思います。その中では、事業参加者も増えることもあり、事務処理業務を委託することで、職員の業務量の削減も図れていると思います。

根本的な歩くということが、生活習慣病の予防に繋がることは、議員研修会での筑波大学大学院 教授の久野譜也先生のスマートウェルネスシティのお話で強調されておりました。医療費削減効果の期待も含めれば、アプリの作成費用、維持管理費用についても十分な価値が見いだせるものと考えます。

健康を維持するためには、様々な要素が絡み合って成り立っています。そのひとつに、「歩く」ということが一つの要素となっています。アプリの利用により、無関心層にも幅広くアプローチできると考えます。本市では、以前から検討しているようですが、早く取り入れることで、今現在より多くの人たちが、意識をもって「歩く」ことが出来るものと考えます。健康増進が進むことに伴い、医療費の抑制につながることは自明のことであるため、しっかり議会で取り上げ、早急の対応を要望していきます。

以上